

奇品家推見卷之上

永島先生ハ京都四谷小住一享保の頃の人也天資花木を好く奇品を  
 愛す其始花壇植本として區を別地不種一を後置栽て壺木と呼先生  
 始一尾陽瀬戸の陶土命て盆を制せむ是を縁付と唱白鋤黒鋤  
 鉢是あり其并利今おれは用ふ所あり此頃より奇品大不行く好人壺を  
 結相唱和して是を玩其巨厨手として世人永島先生と推崇今榮永島連  
 是也珍品を玩事實員お先生を中興の祖とす集る盆栽千を以算自

培養灌園小他事を廢して老将至るまで或詰曰先生彼魚好く徒然艸  
 を閱むや先生笑答曰資朝師の雨舎して弃るひハ今希徒の玩奇品  
 小ハ非夫亦愛する錦葉銀樹體として白むと月下の花ナも勝りま時  
 ちぬ雪うと汚斑爛帯紅の條ある未秋の紅葉をこき筆ル及ぬ葉形慶  
 砂子黄斑黄金色小至迄天生の麗質亦て人作の能するハ非斯珍品奇種推  
 是を愛重せざる人やと問人は答感伏して乍此門に入て好人と京朝は奈  
 初鹿野の二氏こそあり今好人の壺を此人こそ以嗜矢とす

# 縁付(白鍔鉢・黒鍔鉢)

永島先生が最初に瀬戸で作らせた植木鉢 (金生樹譜別録巻一：個人蔵)



しろつば

くろつば



くろつば 五ぐみ

# 永島出奇品

永島先生に由来する奇品植物 (奇品家雅見卷之上：内閣文庫)



ながしまさかき  
かまくらかうじ

雲峰

かもの木  
大ふくりんぢんちやうげ  
ぬのひきおもと